



写真上
学習会の
様子2月26日

職場復帰支援の問題点と 解決方法(本人向け)を学ぶ

第2回メンタルヘルス
研修講座

2月26日、第2回メンタルヘルス研修講座は林精神医学研究所の臨床心理士谷原弘之さんの講演「復帰支援の問題点と解決への提言」(本人向け)で22人が参加。許可を得て実例も示して、事前アンケートへの解

明もされました。
疾病性と事例性の見分けと対応

精神疾患による病状(疾病性)なのか、病気ではなく業務上に問題が発生しているか(事例性)・どちらも「症状」に見えやすいので、そこを見分けること

が大切と指摘。事例性の場合は「きちんとした指導が必要」と説明。
受診のタイミング

支援プランの通知

メンタル不調者が自分で気付かない場合も多く、早期発見には「経験者」の「勘」がその精度を高めること、病気休業開始時に復帰プランの開始や休業期間を明確に伝え、治療目途を持たせることが大切と提言。

休業中の連絡窓口とストレス要因ばく露対策

休業中の連絡窓口は、ストレス要因暴露レベルの低い、組合やEAPなど職場を知ってる第3者がおすす、また最も大きいストレス要因を見つけ、対応を休業前と変える。(上司との関係の場合、接触時間減など)

職場復帰の試行 復帰確認会に付添者

職場復帰可能の判断をいきなりせず、出勤試行で体がどう反応するかなどを見極めること、復帰確認会は「処遇の交渉の場になりやすい」ので「安心出来る付添者の同席」が大切

復帰支援プランに 合わせた仕事を留意

リハビリ勤務は、遂行可能な仕事(印刷物とか)を職場が用意をする、長い間の「プライドを捨て、目の前の仕事だけこなす」(省エネ)「困った時に援助する人間関係」など暴露を避けること

復職サポーター 定期面談でこまめに

職場復帰後のフォローアップには、仕事のペース配分など伴走役などのサポーターを配置すること。定期面談で回復スピードをこまめに確認することと提言

2回目はペースを つかみやすい

休職は2回目での初回の反省もありペースをつかみやすい。

ストレス脆弱な人も 復職できる支援を

復帰支援プログラムが有効に活用できない人に組合が復帰できるような支援していくことが大切。

第3回メンタルヘルス研修講座

☆5月28日(土) 13時
☆岡山勤労者福祉センター

講演「職場復帰支援の問題点と解決への提言」、**周囲の方が困らないために**、

講師:林精研・臨床心理士谷原弘之氏